

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

開催日：令和7年7月4日（金）

会 場：高田農業高等学校 1階 会議室

参加者：12 人

若者の働く場について

（市長）

皆さん、2年生と3年生の方がいらっしゃると思いますが、就職に当たって、どんな支援が必要なのかなと思っています。なかなか自分の将来を見つけるというのは難しいところがあるとは思いますが、どんな情報があれば助かるかななどを教えていただければと思います。

（参加者）

自分は公務員志望で、一応、県と市を受けようと思っているのですが、今年と去年の試験の日が、県と市で一緒なので、必ずどちらかを選ばないといけないです。だから、併願というか、県と市、両方を受けられるようにしてもらいたいです。

（市長）

いろいろ事情があるのですが、どちらかというと、市の方が現場密着なので、私としては市の方が面白いのではないかなと思っています。皆さんも多分、現場を大切にしながら授業を受けてこられたと思うんですけども、私もかつて東京にいて、環境問題は机上の空論では困るな、地域密着でやりたいなと思って、上越市に来たものですから。できるだけ密着してやっていこうと思ったら、市の方が面白いと思います。

（参加者）

スポーツの仕事とかに就きたいなと思っているのですが、この辺であまり聞かないじゃないですか、スポーツの職場って。

（市長）

今はどんな競技をやっているんですか。

（参加者）

野球をやっています。

（市長）

何をするにしても、トップに立とうと思ったら大変ですよ。でも、いろいろな形で野球には関われると思うので、農業をやりながら、野球もやっていただけるといいかなと思

**高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容**

います。

私も桑取に來た次の年から 20 年以上、田んぼをやっていたので、田んぼはやってほしいと思っています。子供たちにも必ず田植えと稲刈りをさせていました。ぜひ作ってください。

(参加者)

上越地区にいろいろな企業があると思うんですけど、それをもっと直接的に知れる方法があると良いと思います。

(市長)

そうなんですよね、それはあると思います。

企業の皆さんは人手不足で困っているの、市とすると、地元の中小企業も含めて、いろいろなところで職場体験ができるような機会を増やしていきたいなと。学校もいろいろ努力はされていると思うんですけど、高校生の皆さんに来ていただきたい企業はたくさんありますので、そういう機会を作っていきたいなと思っています。企業の方のお悩みもお聞きしていますので。現場で実際に見たり聞いたり、できればちょっと触ってみたりしないと分からないですよね。そこでどういう人が働いているのか、分かったほうが良いと思います。

(参加者)

自分の目標にしている職業がまだはっきりとしないんですけど、上越市としては、どういう人に上越市で就職してほしいというのはありますか。

(市長)

協力して仕事をしていかなければいけないので、コミュニケーション能力というか、人と接してうまくコミュニケーションできる人は大切なのかと思います。どちらかというと、そうやってきたのが日本人なのかなと思うんですけどね。

あとはやはり、謙虚に誠実にやる人が一番良いですね。私も全然違うところから来て今の桑取に住んでますけど、とにかく、謙虚に、誠実に、その土地の生活に合わせながらやってきました。

(参加者)

就職にあたって一番大事なのは情報だと思うんですけど、上越市には企業とか働く場がいっぱいあるので、その中で就職先を選ぶために、各分野ごととか各企業の大まかな強みとか、「こんなことしてます」というのがすぐ分かるような情報が、どこかで発信されていれば良いなと思いました。

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

(市長)

そうですね、分かりました。

私自身の人生を振り返ると、大学で建築の勉強をしていたのに、一切建築の仕事をしてないんですよね。もちろん、農業は生きるために第1番目に大切なんですけども、自分のやりたいことを探し当ててっていうのは、まだ私自身もこれから変わっていくんじゃないかなという気がしています。

だから、そんなに焦らないで、皆さんが自分は何が好きなのかということを考えながら、結局はどの人と一緒に仕事をするかということになると思うので、目の前にいる人が自分と合うのか合わないのかというのを、たくさんの人に会って判定していくといいんじゃないかと思いますし、市としても、高校生の皆さんのそういう場が増えるように努力はしていきたいと思います。また、高校の先生の皆さんと協力しながら、そういう場所を作っていきたいと思っています。

私は今まで、10年ぐらいごとに職業が変わってきました。私には地域を活性化していきたいという思いがあって、NPOもやっていましたし、本当は農事組合法人をやっても良かったんですけど、今は政治の立場で支えています。いろいろな立場で、自分の目標とか目的を達成するためには、職業はいくらでも選択肢はあるんじゃないかなと。自分が何をやりたいのかを探し続けることが、一番大切なかなと思っています。

(参加者)

代表の人が意見を言い合うだけでなく、今日みたいに、高校生とかが気軽に上越市に「こういうことをしてほしい」と意見を言えたりする場があったらいいなと思いました。

(市長)

そうですか、ありがとうございます。

やはり「自分がこうしたい」って思うのが、何か行動のスタート地点になってくると思いますので、高校生として、自分でどこまで何ができるかってことを考えたときに、まずは自分ができるところから始めることが大切だと思っています。無理に大きな扉を開けなくてもいいんです。小さい扉を開け続けてもらえばいいと思いますので。私自身も、この立場になるまで、いろいろなことに取り組みながらやってきましたが、自分ができるところ、小さいことを少しずつやってきて、ここにたどり着いているだけなので。

そういうご意見いただいたことを、私も忘れません。ぜひ、私としては、考えて行動していただければと思います。

(参加者)

私は、今、農業生産コースに入っていて、農業系の仕事に就きたいと思っているのですが、この前求人票を見て、農業を主にやっている農場みたいところが少ないなと思いま

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

した。良い農場は無いのかなと。

（市長）

私が「この農場がいいよ」とは言えませんが、いろいろチャレンジングなところがありますので、農林水産部にそういうことに詳しい職員がいますから、紹介してもらってください。面白いところがあります。

地域の魅力発信について

（市長）

例えば上越市とか妙高市のどんなところに魅力を感じていらっしゃるでしょうか。何でも良いので、「これは大好き」というのがあったら教えてください。

（参加者）

僕は小さい頃、上越で育って、やはり自然の中で育ったので、森林とか山とかが好きなんですけど、それを世界に発信していけたら、もっとより良い上越市になると思っています。

（市長）

大体どの辺りにお住まいなんですか。

（参加者）

富岡です。

（市長）

今は商業施設がいっぱいできていますが、もともとは農村のところですね。昔の写真を見たことがあります。妙高山も米山も見えるし、もう山が全て見えますよね。夕焼けがきれいですよね。

（参加者）

そうなんです。

（市長）

そういうところを素晴らしいと思っていられるんですね。ありがとうございます。

やはり、この地域の景色っていうのはすごいですし、海の向こうを見たら、雨が降ってきているのも全部見えるし、星空が非常にきれいなんです。東京に行くと、本当に星が数個しか見えないんですけど、こちらに来たら、天の川が見えるわけですよね。本当に素晴

**高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容**

らしい景色だと思っています。感動する人をもっと増やしていきたいと思います。

(参加者)

自分は妙高市に住んでいるんですけど、上越市は山もあって、海もあるし、その両方楽しめるのがいいなと思っています。妙高高原に住んでるんですけど、山しかないので、海があるのはすごい良いところだなんて思います。

(市長)

そうですね、私の感想なんですけど、私は大阪とか兵庫で全然雪が降らないところに住んでいて、1年に2、3回、車のボンネットの上に少し雪が積もって、それを集めて投げるのがすごく面白かったんですよ。雪が降ったら子供たちがみんな外に出るんです。

でも、こっちに来たら、ものすごい雪の量が降るじゃないですか。ある日、夜に全然雪が降っていなかったんですけど、朝起きたらもう雪がどっさり降っていて、夜行列車に乗って移動してしまったんじゃないかと思うぐらいきれいだったんですよ。

昔は「シュプール妙高」というスキー列車もありましたけど、妙高山っていうのは大阪の人にとっては憧れみたいなのがあって、そういう意味では、雪に感動する人もいます。妙高の奥だとたくさん降ると思うので、大変ですけどね。中郷も結構除雪しなければいけないところですが、皆さんそれを乗り越えて過ごされているので、精神的に粘り強いんじゃないかなと思っています。マイナスと思っていたのがプラスになることって、よくあるのかなと思っています。

(参加者)

私の家の周りにはたくさん田んぼがあるんですけど、上越妙高駅も近くにあって、駅の周りの田んぼが無くなって、家とかマンションとかが建ってきているのが、少し寂しいなと感じています。

(市長)

私自身は山あいのところに住んでいますが、平野部は用水がないと田んぼができないですよ。今でも、上江用水、中江用水、西側にも用水がありますけど、平野部はどちらかというと沼地のところが多くて、用水の発展によって田んぼができるようになっていきます。

私が住んでいるところは棚田なんです。どこから田んぼができたかっていうと、山から田んぼができた。水がそこにあるわけです。水があるところに田んぼができる。だから、川の上流からずっと下流の方に下りてきたっていうのが、実は田んぼの始まりです。ただ、大きな農業機械が入らないと生産効率が悪くて採算がとれないわけですね。お米も高く売らないといけないっていうのがありますから。昔は、11月に稲刈りが終わった後

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

に、みんな田起こしをして、自分たちの田んぼを開拓してきたわけですが、それが山のところから無くなっていっているというのが現状で、平場のところもだんだんと、やはり担い手がいないので減っていつてしまうというところがあります。

今の状況は、米の価格が高くなると、農業をやっている方々も儲かりやすくなるんですけども、一方であまり高くなると、米から消費者が離れてしまうんじゃないかという危惧もあるので、そのあたりのバランスを取りながら考えていかなければいけません。

やはり、基本的には平野部の田んぼが中心になってくるんじゃないかなと思うので、もしそういう思いがあるのであれば、どういう形であってもそういうところに取り組んでいただけると助かるかなと、私は思います。

私自身も、今はちょっと休んでますけど、いずれはまた復活して田んぼをやりたいなとは思っています。

(参加者)

若い人でも田んぼがしやすいように、支援とかがあったら良いなと思います。

(市長)

そうですね、例えば「スマート農業」っていうのは、ほ場が大きいとやりやすいので、できるだけほ場を整備して、自動で動く機械もありますので、そういったものを取り入れていくと良いのかなと思います。

組織としても、ある程度そういうところに投資もしていかなければいけないので、そういうきちっと経営ができるような農業法人がもっと増えてくるといいかなと思っていますし、そういうところをもっと育てていきたいなと思っています。

(参加者)

ありがとうございます。

(市長)

そういうところにぜひ入っていただければと思います。いずれは自分で会社を立ち上げて、やっていただけるといいかなと思います。それぞれ個性がありますので、自分がやれる範囲でやっていただきたいと思います。

(参加者)

「上越と言えばここ」っていう観光スポットが欲しいというのがあって。現状で言えば、4月は高田の桜、夏は直江津の花火とかがあると思うんですけど、それって通年じゃないじゃないですか。通年を通して観光客を呼べるスポットというのが欲しくて、上越の魅力と言えば桜があるんですけど、それは時期があって、あとは米とかが出てくると思う

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会 意見交換の内容

んですけど、それはもちろん良いところなんですけど、それ以外にもいっぱい魅力があって、県外からたくさん人を呼べるスポットが欲しいなというところがあります。

（市長）

私も県外からやってきた人間なので、上越にはたくさん魅力がありますけど、やはり一番おいしいのはお米とお酒なので、それはぜひ皆さんに食べていただきたいと思いますし、あと、歴史文化で言ったら、一番は上杉謙信公なんですよ。だからそこは通年で観光できるように、デジタル系のものもいろいろ活用しながら、体験もできるようにしていきたいと思ってますし、春日山城そのものは昔のまま保存するしかないんで、もう少し散策しやすいようにはして、やはり通年でやっていきたいなと思っています。

もう1つは、先ほども言いましたけど、雪国なんですね。「この下に高田あり」っていう札が立てられていたことを知っている人はいますか。雁木町家ってありますよね。あれは道が雪で埋まっても大丈夫になっているんです。道が雪で埋まったらその雪にトンネルを掘って、雁木町家をトンネルで行き来していたんですね。もちろん、積もった雪を大きなノコギリで切って川に捨てるとかやっていたんですけど、とても捨てきれるような状況じゃなかったの。

私としては、雁木町家というのは1つの歴史的な文化であり、雪国の文化を感じながら、雁木町家で食事をしていただく、お酒を飲んでいただく、空き家を活用してきちっと宿泊もできる、瞽女さんなどの歴史文化も楽しんでもらう、ということをやっていくと、欧米系の方とか、日本国内の雪が降らない所の方々も来るんじゃないかなと思ってます。

先ほど「山鳥毛」について触れましたが、瀬戸内市というのは岡山県なので、山陰の山麓と四国の山に囲まれて、一切雪が降らないところなんです。上越は今冬は寒波が2回来て、豪雪だったじゃないですか。瀬戸内市の人に、道路の脇にロータリー車で雪を上げていく様子を見せて、「この雪壁はこれでも低い方なんですよ」って言ったら、目を丸くしていました。だから、そういう人たちは、ここに来て、雪の姿を見ると、おそらく感動すると思うんですよ。外国の方とか、日本国内でもいいですけど、よそから見て感動するものって何だろうと考えたり、よそから来た人と意見交換をしながらやっていくと、面白いものが生まれてくるんじゃないかなと思っています。

（参加者）

上越といえば、私はお花見だと思っていて、お花見の時はすごくたくさんの方が来て楽しいと思うのですが、お花見が終わった後、今の季節とかはあまり観光客の人もいないので、人が来られるようなまちにしていきたいなと思います。

（市長）

四季折々いろいろなものがあるので、春は桜ですけど、そのあとの新緑も私は結構好き

高田農業高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

ですし、今はもう蓮が咲き始めていますが、いろいろな花が咲くんですね。私は少しだけ茶道をやるのですが、季節ごとに飾る花が違います。提供するお菓子とかお茶も違うし、季節ごとのそういうものを愛していくという心が、生活の中のリズムを良くしていくんじゃないかなと思っています。

私の住んでいるところは、家のそばに土の側溝が流れていまして、今の時期ちょうど、玄関を開けると蛍が見えます。娘が勘違いして「玄関開けたらホタルってみんな見れるんですよ」と言うから、「そんなわけないでしょ」と言うんですけど、やはりそういう一つ一つが、私たちからすると体験したことのないことが目の前にあるので、感動につながっていくんですね。

だから、日々、おいしいものが食べられて、きちっと勉強ができて。いろいろな条件がありますから、そうじゃない方ももしかしたらいるかもしれないんですけど、こうやって生きて、未来のことを考えられるということは幸せなんだなって思うことは、私は大切なんじゃないかなと思うんです。

少なくとも、今世界で起きているような、家の上にミサイルが飛んでくることは、私たちにはないですから。戦争が無いっていうのは大切なことだと思っていますので、そういう意味で、自分たちの幸せを日々感じるのが、日常の暮らしを豊かにしていくんじゃないかなと思います。